

# 多摩地区発表大会 陸上運動系領域部会 研究分科会

平成30年11月2日  
東村山市立八坂小学校にて

## グループ協議

・本日の視点について 知識及び技能の「動きのポイントを知る」を4時間目に押さえることとした。2年生と3年生の接続も考えた。この点を切り口にして協議してほしい。

## 全体協議

- ・最後に知識を押さえ、一回だけ確かめて運動する。それで本当に実感をもった知識になるのか、繰り返したほうが実感を伴った知識になるのではないか。3年・4年で分けたポイントは、4時間の中で身に付くのか。実感を伴った状態で4年生になってスタートできるのだろうか。
- 技能ポイントを絞って学習を進めた。子供たちは跳ぶこと自体を楽しんでいた。たくさん夢中になって跳ぶ中でできるようになっていく（経験を積む）ことを重視した。技能が頭打ちになる2・3時間目にどうしたらいいのかを考える。片足踏み切り両足着地は3時まででほとんどの子供はできていた。確認として4時間目に押さえた。先に知識を押さえてしまうのではなく考えたり試行錯誤したりさせるために体験重視にした。
- 3時間目の前半まででたくさん跳ぶ経験をたっぷり積んだことで、児童は動きのポイントに気付いていた。4時間目まで押さえなかったが、3時に技能ポイントにつながる思考が進み、両足着地は3時の終わりには多くの児童が気付いていた。「両足だとお得だね。」という表現で出てきた。

## 本日の授業について 授業者自己評価

- ・クラスの実態を踏まえて、一昨年の実証授業を参考に場を変えて指導を行った。運動が苦手な子からも楽しいという声が上がってきていた。今回の授業もみんなが楽しいと言っていた。幅跳びにつながる動きも出てきていた。次時は自分で楽しめる場を選んで楽しんでもらいたい。

## 指導助言

講師 東村山市教育委員会 指導主事 鈴木賢次先生

- ・運動遊びと運動をどうやってつなげたらよいかが提案の肝であったように思う。学習指導要領にも、「運動遊びを踏まえて運動を」とある。今日の姿をどう踏まえたらよいのだろうか。
- ・3年生になって体育学習で求められる段階が高度になるイメージがあるが、部会では2年生の運動遊びからの接続をしっかりと考えられていた。
- ・新しい学習指導要領には、体育が苦手な子や意欲的ではない子への配慮があるが、今回の実証授業に関しても4時にそれらを押さえておしまいではなく、教師は第4時に入る前に全員にできるようにさせておく必要があるのではないか。部会の提案は価値があったが、苦手な子への支援は1時から4時まで必要であったのではないか。
- ・走・跳の運動遊びでは、子供たちは「遊び」自体を楽しんでいたが、教師が具体的な「動き」のよさを見取り、声掛けをされていてよかった。
- ・子供たちは「ぴよんぴよんランド」で遊んでいるだけだが、教師は遊ばせるだけではいけない。教師は児童の運動の状況を把握しなければならない。
- ・運動を楽しむ中で学ぶ3年生、結果を楽しむ中で学ぶ4年生というキャッチフレーズがよい。1・2・5・6のキャッチフレーズはどうか。次年度は評価になるので、そこへ繋げていってほしい。
- ・第2時メリーゴーランドで鬼ごっこを始めた。当然動きも変わる。児童から「ちょっと待って、笑いが止まらない」という声が出ていた。こういった運動遊びの姿を見せることが大事なのではないか。

教職員研修センター指導主事 渡邊徳人先生

- ・どのように競争を楽しませるかが今後の課題である。